

幸せは小さな一歩から

東臼杵支会代表 那須 美寿稀

「選挙」と聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。私は、選挙事務のために朝早くから夜遅くまで仕事で帰ってこなかった父親の姿と、幼い私、妹、弟の3人を連れて近所の投票所に投票をしに行く母親の姿が思い浮かびます。幼いころより選挙が身近にあったこともあり、大人になったら「選挙は行くべきものである」と考えるようになりました。現在は有権者となり、何度も投票を行っていますが、そのたびに自分の意志を示すことができる社会に感謝をしながら投票をしています。

しかしながら、私と同じ若者の投票率は低いという事実があります。その理由は何でしょうか。選挙当日、投票所に行くことが困難だったからでしょうか。誰に投票すればよいかわからないからでしょうか。

様々な理由が考えられますが、これらはただの言い訳に過ぎないと思います。選挙当日に投票所に行くことが困難な場合は期日前投票もできますし、親元を離れて生活をしている大学生などは不在者投票制度を利用することで投票ができる場合もあります。

また、いわゆるZ世代と呼ばれる私たちは、インターネット環境での情報収集に長けています。インターネットで政党名を検索すれば政策を知ることができますし、SNSで政党名を検索すれば、その政党に対する国民の反応も見ることができ、参考にすることができます。加えて、NHKをはじめとするテレビ局や、各新聞社などでは設問に答えるだけで自分の考え方に近い政党を知ることができる「ボートマッチ」のサービスを無料で提供しています。

これら様々な制度整備や情報提供がなされているのにも関わらず、現代の若者は投票を行わないのです。結局のところ、自分から動こうとせず、様々な言い訳を並べて「自分には関係ない」と選挙や政治について考えることを放棄してしまう若者が増えていると思います。

しかし、選挙や政治について考えることを放棄する若者が増えてしまうとどうでしょうか。まず、若い世代が必要とする施策が減ってしまい、投票率の高い高齢者支援の施策が多くなってしまいます。例えば、子育て支援の施策が減ってしまい、少子高齢化が今よりも加速することが予想されます。少子高齢化が加速した結果、税金が高くなり今よりも生活が苦しくなってしまうかもしれません。

また、若者年代が親となり、子供を育てる場合、政治に関心がなく選挙に行かない親をみて育った子供が選挙に行く可能性は低くなると思います。その結果、選挙や政治に無関心でいる人がもっと多くなることが予想されます。

将来、だれも選挙や政治について考えなくなってしまうたら日本や私たちが住んでいる地域はどうなるでしょうか。日本や地域を良くしようとする人が減ってしまうわけですから、現在の平和で幸せな暮らしから遠ざかってしまうことは間違いありません。

現在の生活よりも苦しく暮らしにくいとわかっている世の中で生活したいと思うでしょうか。

今後、私は平和で幸せな暮らしを送りたいと思いますし、私よりももっと若い世代にもその暮らしを引き継いでいきたい。そう考えるのでこれからも投票所に足を運び、一票を投じます。

私は投票をしない同年代の若者に声を大にして言いたいと思います。今、投票をしないという行為は、巡り巡って今後の私たちの人生の幸せを奪い、苦しめることにつながります。

投票は決して難しいものではありません。投票という小さな一歩から自分の幸せをつかみにいきましょう。